

「明治記念大磯邸園」が

いよいよ第1期開園します！

～ 明治150年の歴史を今日に伝える佇まいをご覧くださいませ～



国・県・町では「明治150年」関連施策の一環として、伊藤博文邸跡（旧滄浪閣）等の建物群及び緑地を「明治記念大磯邸園」として整備を進めています。今般、第1期開園として、旧大隈重信別邸庭園及び陸奥宗光別邸跡庭園の一部区域を開園します。

- ▶開園日 **11月3日(火・祝)～**
- ▶開園時間 **9時～16時30分** (最終入園は16時まで)
※11月3日は13時～
- ▶入園料 **無料**
- ▶休園日 **毎週月曜日** ※月曜日が祝日の場合は翌日
年末年始

※現在整備中である未開園エリア、各邸宅建物内についての一般来園者の立ち入りはできません。
※駐車場はありませんので、お越しの際は公共交通機関をご利用ください。
詳細は明治記念大磯邸園ホームページ (<http://www.meijikinen-oiso.jp>) をご覧ください。
第1期開園を記念して大磯町郷土資料館、旧吉田茂邸において、関連展示を行います。詳細は10ページ参照
[明治記念大磯邸園インフォメーション](#) ☎(61)0101
都市計画課 ☎内線221



旧大隈重信別邸・旧古河別邸

大隈重信は伊藤博文が大磯に滄浪閣を建てた翌年の明治30年（1897年）に大磯に別邸を購入しました。その後明治34年（1901年）に古河市兵衛（古河財閥創業者）に売却され、古河家の別荘や古河電気工業株式会社の迎賓施設として利用されました。増改築がなされているものの維持管理されていたため、明治期の主要な構造が残っており、大磯が明治期に別荘地として最も発展した時代の海浜別荘建築が今に残されています。



多段構成の斜面とツツジの群植



邸宅から庭園を望む

旧大隈重信別邸・旧古河別邸 庭園の特徴

旧大隈重信別邸・旧古河別邸の前庭は、和洋折衷式庭園の様相になっています。南側に明るい芝庭、その先に続く多段構成の斜面にツツジの群植があり、さらに下がった場所にタギョウショウの列植が見られます。これら植栽は、海沿いの松林や相模湾等を借景として取り込む庭園構成であったと考えられます。



大隈重信 生没年：天保9年（1838年）～ 大正11年（1922年）

出身地：佐賀県

明治21年（1888年）に第1次伊藤内閣の外務大臣を務めた後、明治31年（1898年）に憲政党を結成し、内閣総理大臣として日本初の政党内閣を組織しました。

また、早稲田大学の前身となる東京専門学校（明治15年創立）の創立者として、教育にも尽力しました。



陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸

陸奥宗光は明治29年（1896年）に病氣療養のため、大磯に邸宅を建築しました。陸奥の没後、邸宅は次男・潤吉が養嗣子となった古河家の別邸となりました。その後関東大震災で損傷したため、現在の邸宅は、古河家3代目当主古河虎之助により昭和5年（1930年）に建築された数寄屋風の建物で玄関入口には「聴漁荘」の扁額が掲げられています。



斜面地形を生かした日本庭園



開園区域は園路が整備されています

陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸 庭園の特徴

陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸に現存する前庭は、斜面地形を生かした滝石組のある日本庭園となっています。庭園の形式は、邸宅前にある井戸からの流れに沿って、ツツジが植栽された斜面を下る回遊式が主体となっています。滝石組は地域固有の石である根府川石と黒ボク石で構成される特徴的な意匠を有しています。

敷地の中にあるバラ園は、バラ園で有名な東京都北区にある旧古河庭園とのつながりを感じさせます。

陸奥宗光 生没年：天保15年（1844年）～ 明治30年（1897年）

出身地：和歌山県

陸奥宗光は、伊藤博文の勧めで、明治17年（1884年）からの2年間、憲法を学ぶため、米国、欧州に外遊しました。

第2次伊藤内閣の外務大臣に就任し、不平等条約である治外法権の撤廃を実現し、日本の国際社会における地位回復に貢献しました。